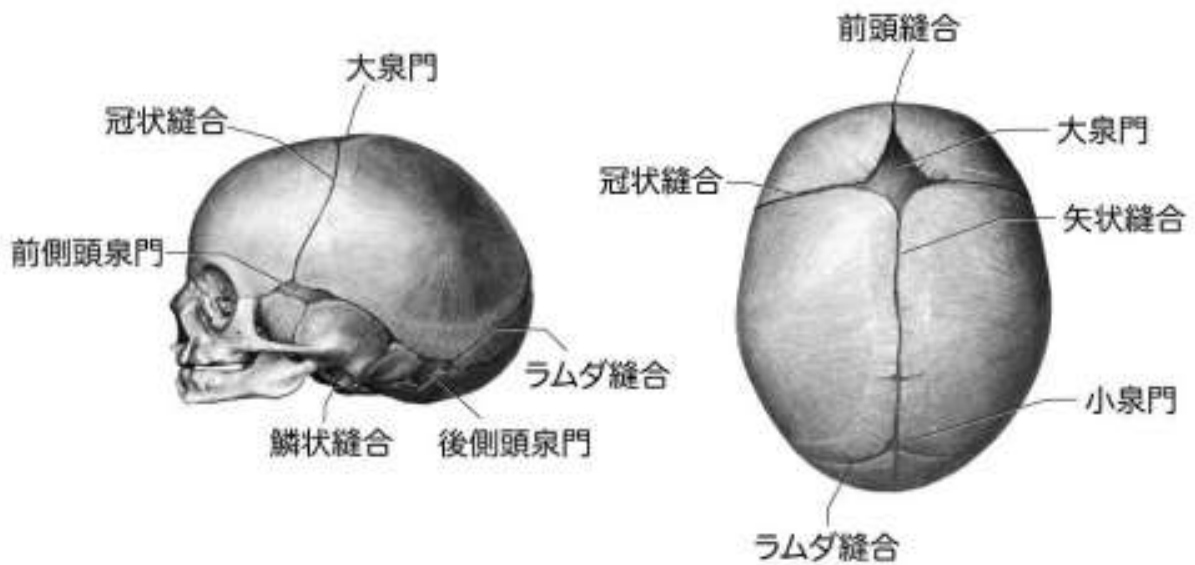
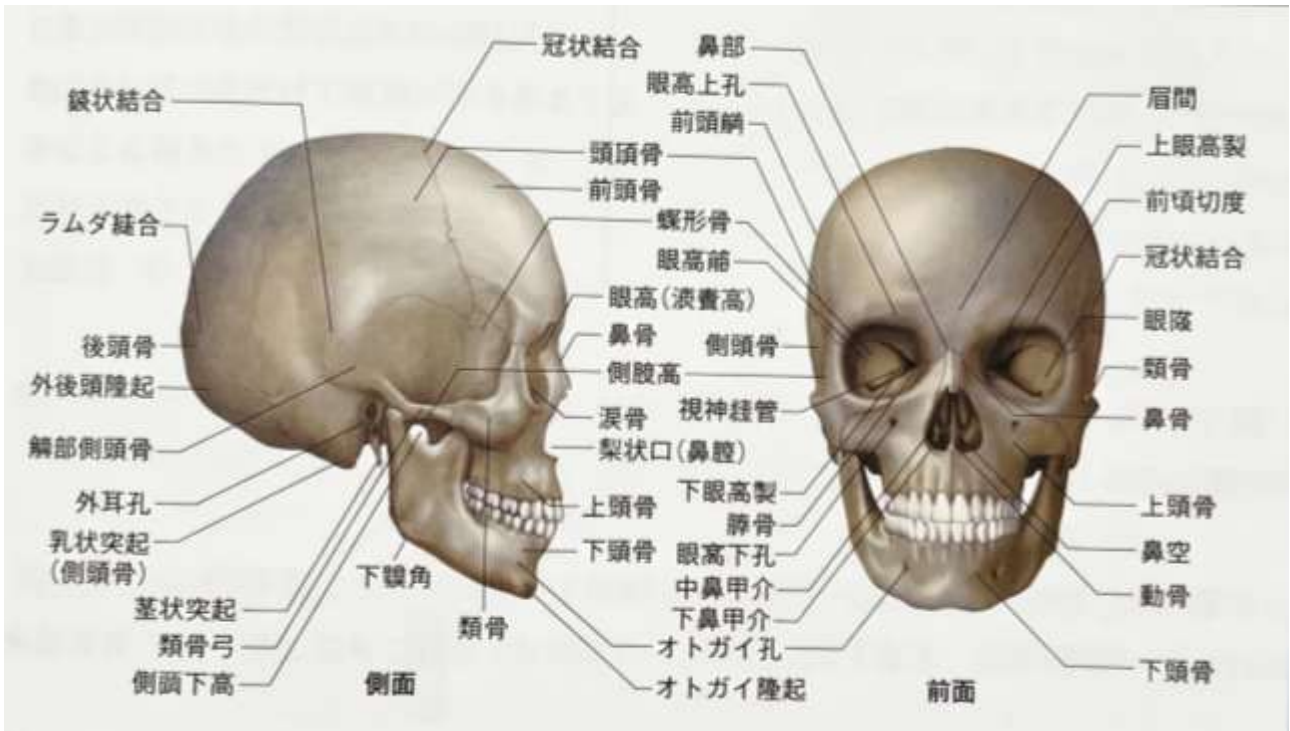


# からだの枠組みとなる骨格

## 1. 全身の骨格の特徴と臨床的意義

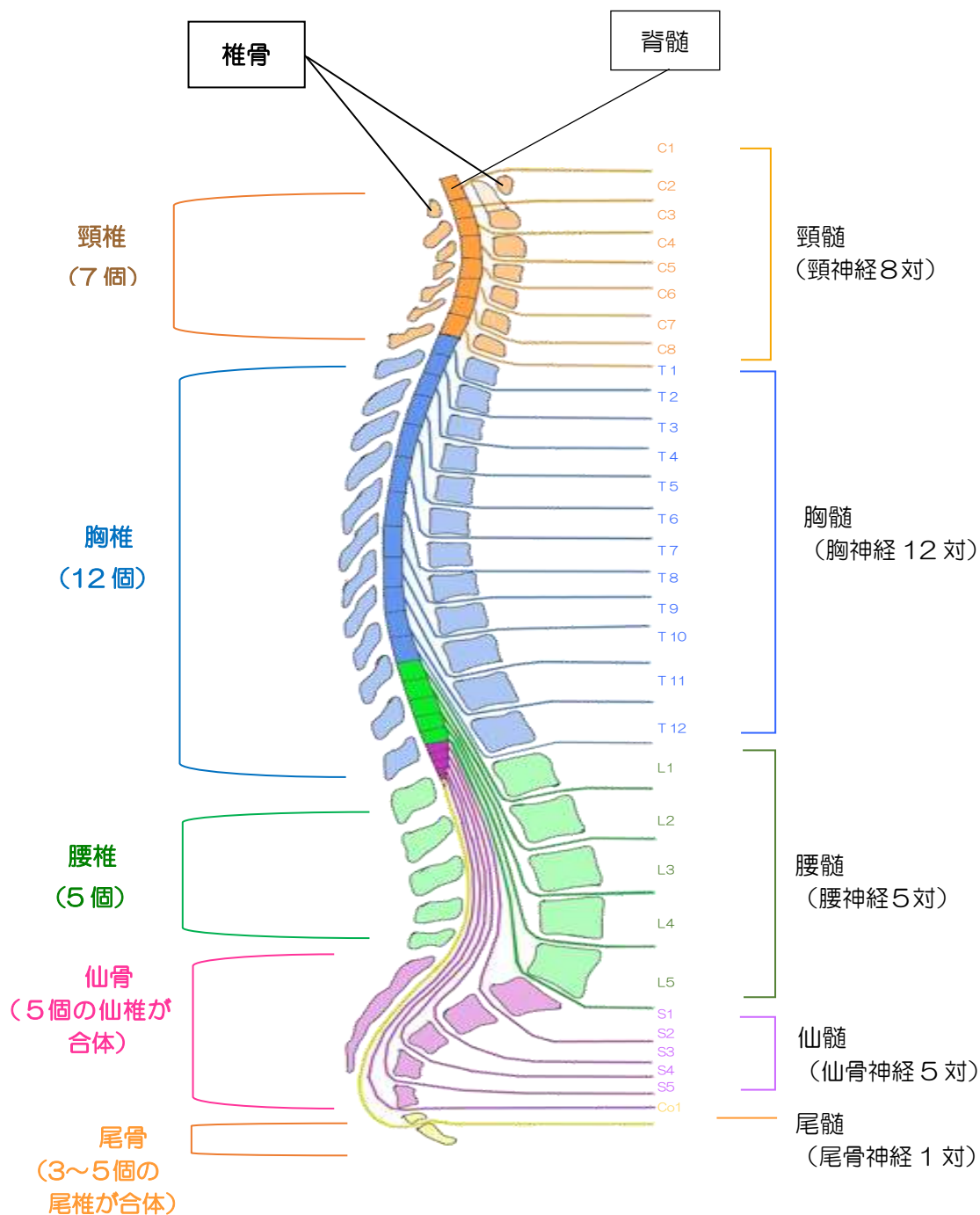
### 1) 頭部と体幹

(1) 新生児の頭蓋骨には骨と骨の間に大きな隙間（膜性分）があり、これを泉門という。特におでこの上にある大泉門は1歳半ごろに閉鎖する。



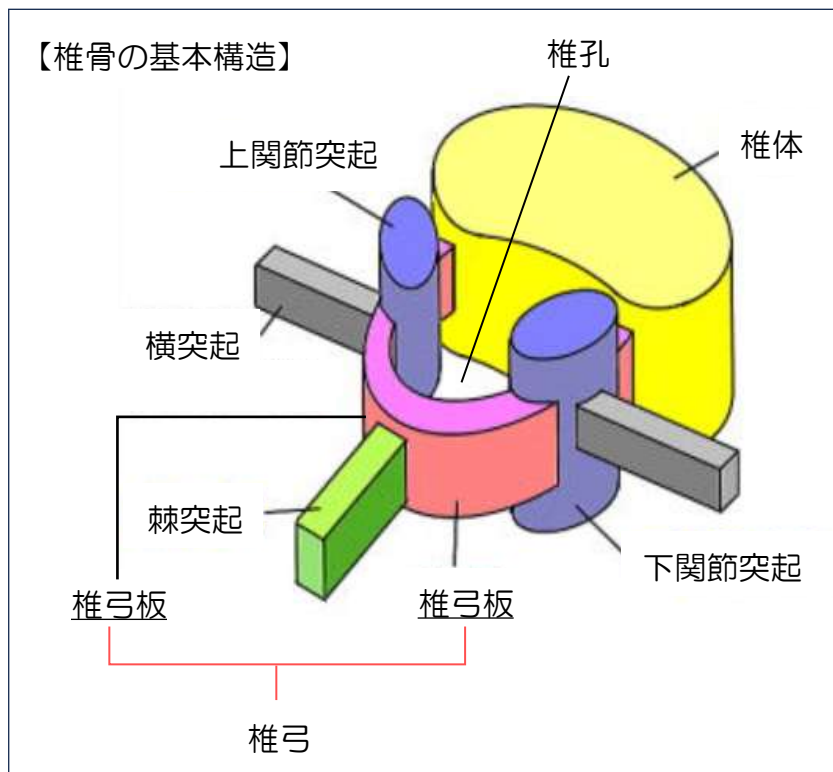
## 2) 脊柱

- 脊柱は、椎骨が積み重なったものである。
- 椎骨と椎骨の間に線維性軟骨である椎間円板が介在する軟骨結合である。
- 頸椎 7 個、胸椎 12 個、腰椎 5 個、仙骨（5 個の仙椎が合体）、尾骨（3～5 個の尾椎が合体）で構成される。
- 椎骨が積み重なることで、椎孔が上下につながり脊柱管をつくる。脊柱管の中に髄膜に覆われた脊髄をおさめる。



(1) 椎骨

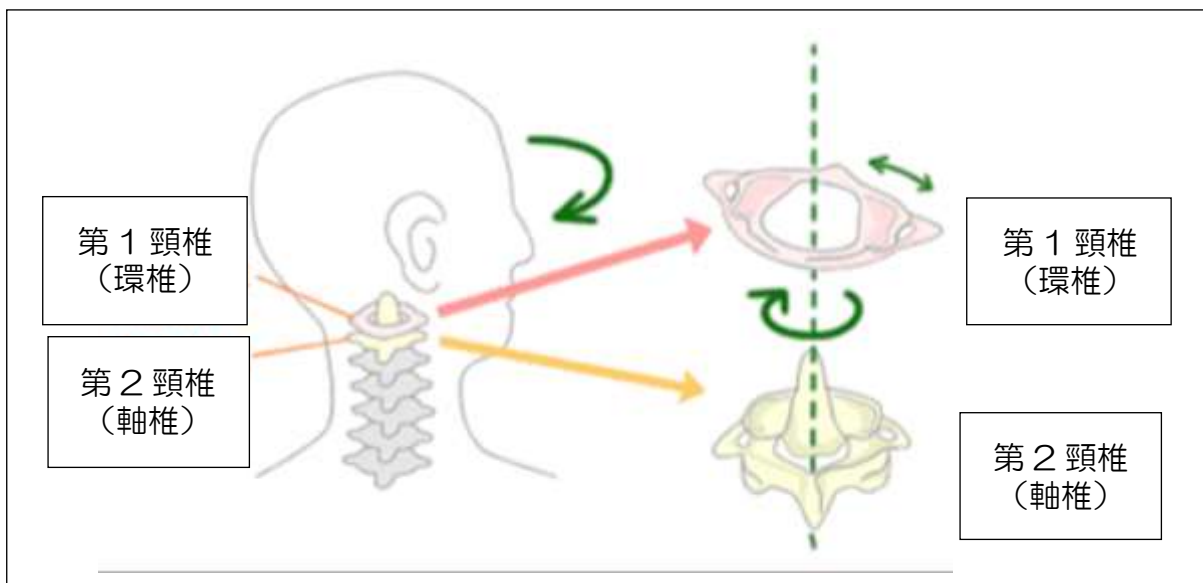
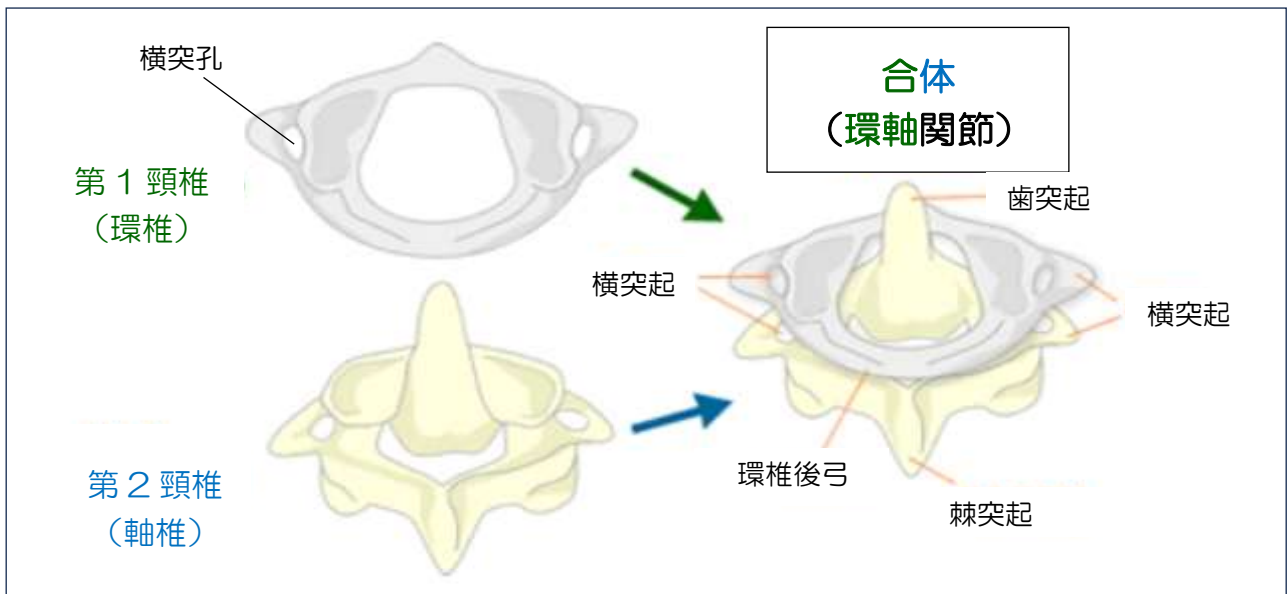
- 本体を成す椎体と、その後方のアーチ状の椎弓からなり。両者の間に大きな孔（椎孔）がある。
- 椎弓からは 4 種類 7 個の突起がある。
  - ① 棘突起：後方に向かう。無対である。
  - ② 横突起：側方に向かう。1 対である。脊柱起立筋の付着部である。
  - ③ 関節突起：椎弓の両側から上下にでる。上・下とも各 1 対である。

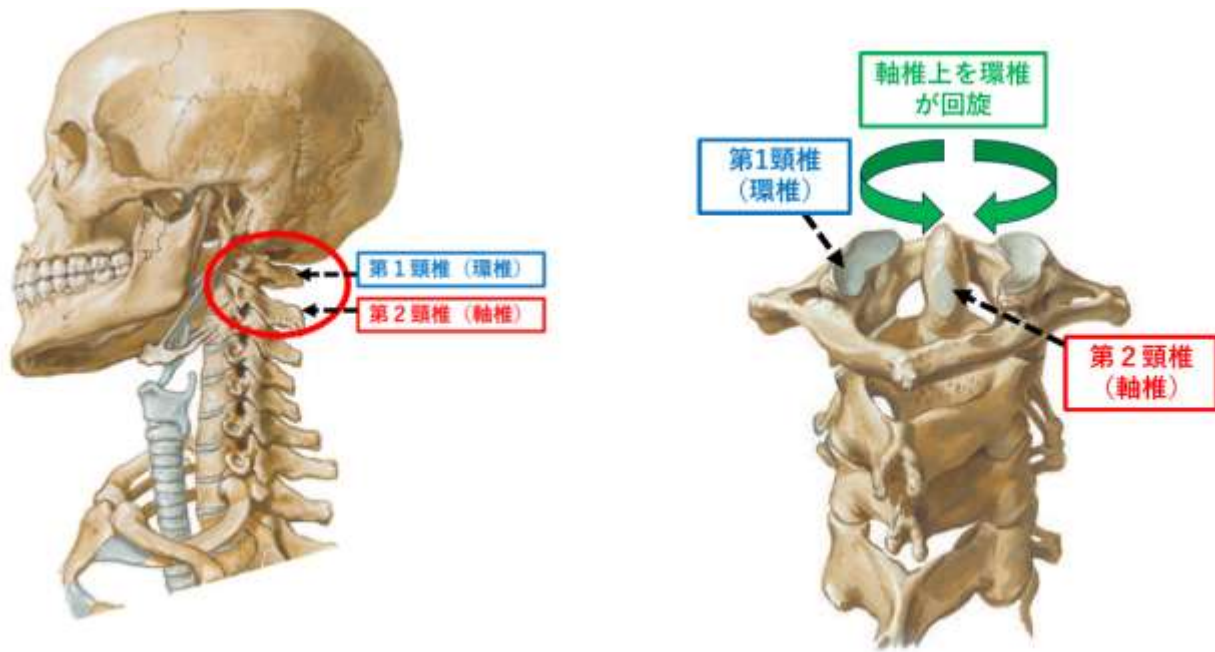


(2) 頸椎：7個

- 横突起に孔が開いており（横突孔）、脳に向かう椎骨動静脈が上下に走る。
- 第1頸椎（環椎）は指輪に似た形で、椎体にあたる部分を欠く。
- 第2頸椎（軸椎）から上方に歯突起が突き出している。
- 頸椎は全体としてよく動く。特に、第1・第2頸椎の間で左右方向の回転運動を行う。
- 前方に彎曲する（前彎）。

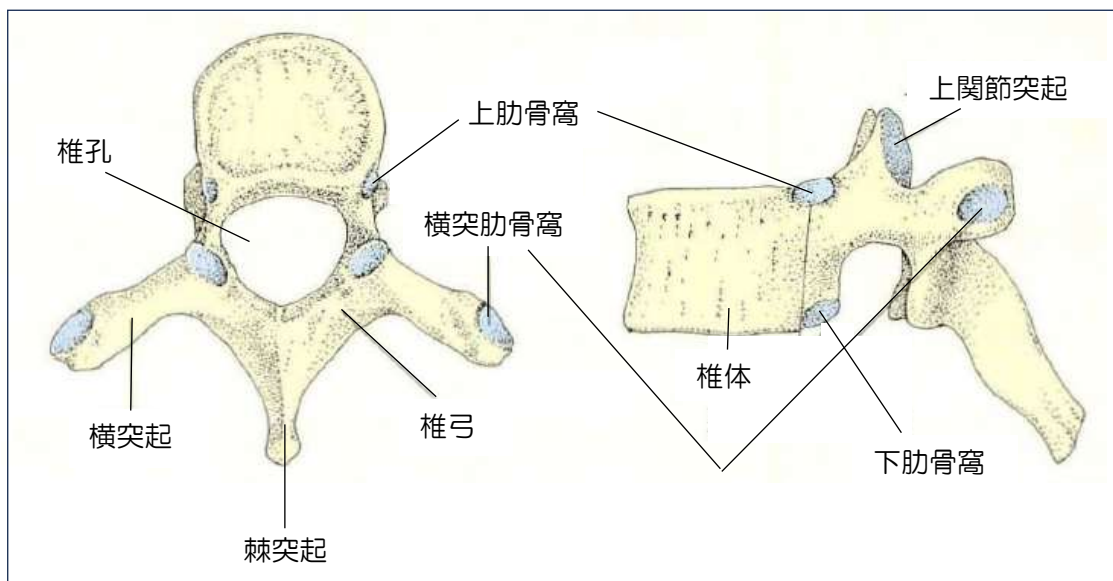
特徴的





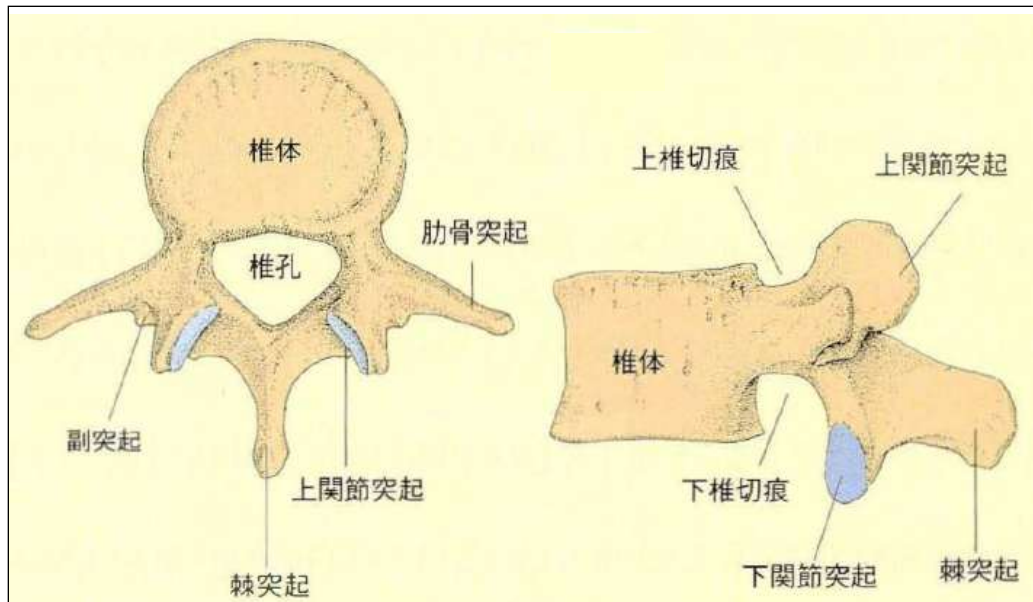
(3) 胸椎：12個

- 肋骨の関節をつかって胸郭を構成する。
- 動きは比較的少ない。
- 後方に彎曲する（後彎）。



(4) 腰椎：5個

- 上半身を支えるために大型である。
- 筋の起始部となる突起が発達している。
- 前彎である。



(5) 仙骨：5個の仙椎が合体

- 左右の寛骨と関節をつくり、骨盤を形成する。
- 後彎である。
- 腰椎との境界部には鋭く前方に突出した<sup>こうかく</sup>岬角がある。

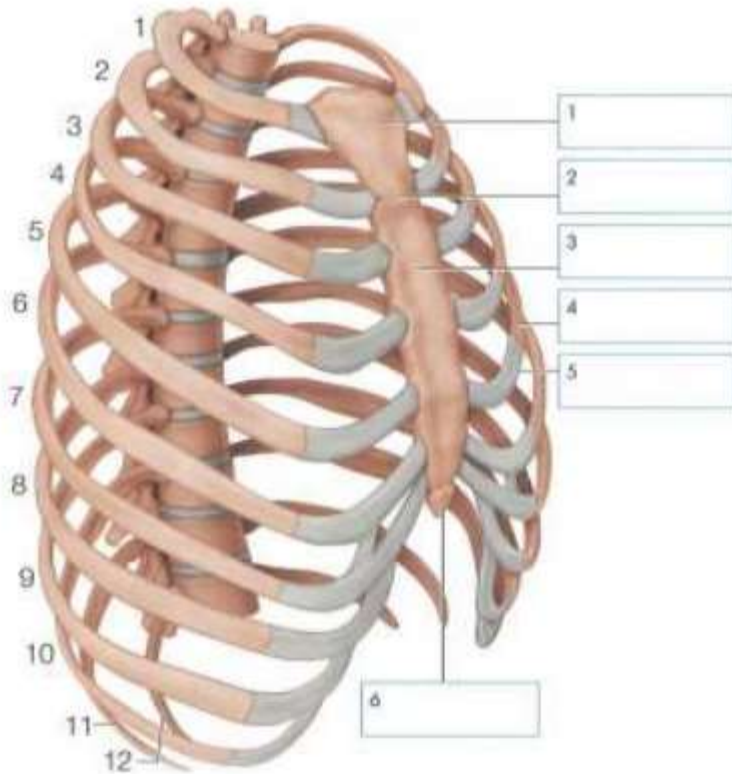
(6) 尾骨：3～5個の尾椎が合体

- 仙骨の下で関節をつくり、骨盤に含まれる。

### 3) 胸郭

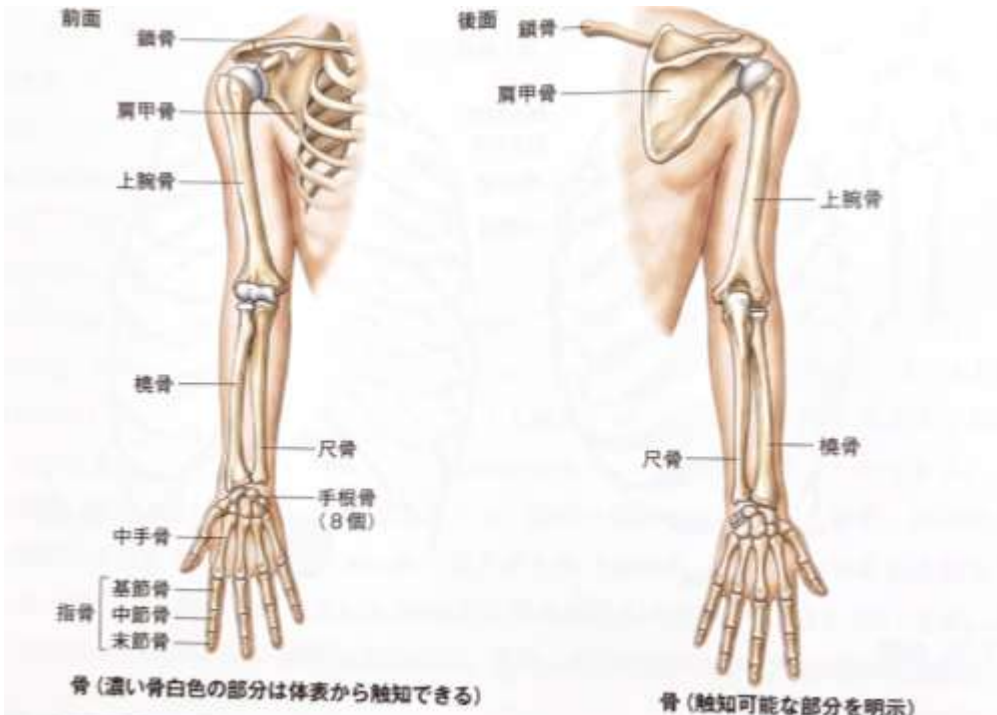
- 胸椎 12個と肋骨、胸骨からなる胸部を囲う骨格。

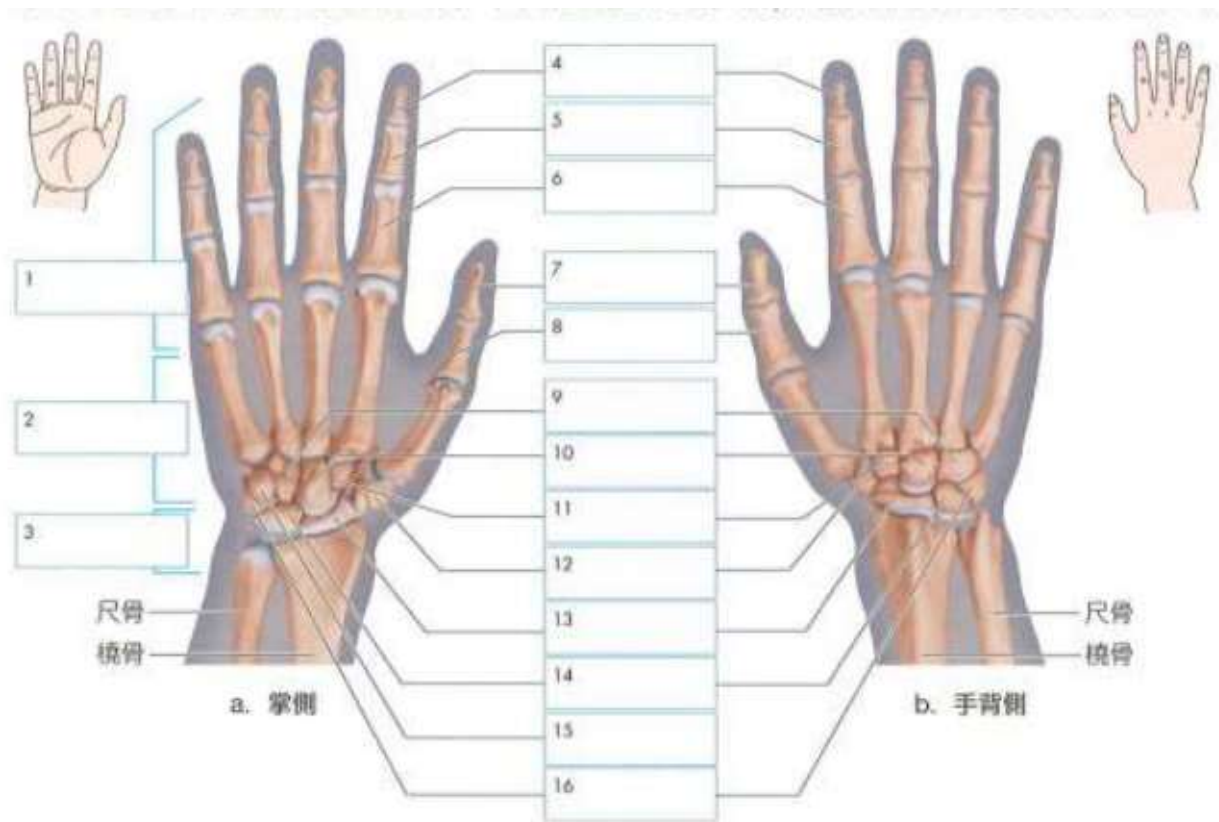
胸骨角：胸骨柄と胸骨体の結合部で、第2肋骨が結合する。体表解剖理解には大切な場所。肺や心臓の音を聴く際の指標となる。



### 4) 上肢の骨

- 鎖骨と肩甲骨、上腕の上腕骨、前腕の橈骨・尺骨、手の手根骨・中手骨・指骨からなる。





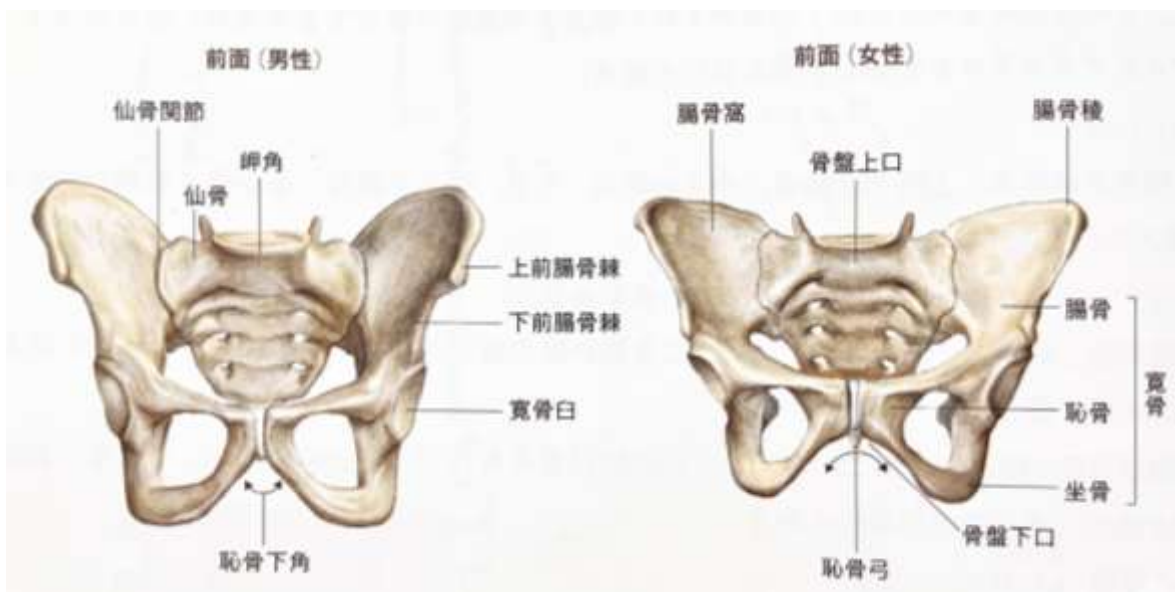
## 5) 骨盤

仙骨、尾骨と左右の寛骨からなる。

寛骨は腸骨・恥骨・坐骨が結合したもの。

(1) 骨盤の男女差：女性の骨盤は、胎児を保持し、出産時に産道となるため、男性に比べて全体的に低く、幅が広い。

(2) 恥骨下角の角度は、男性が約  $60^\circ$  であるのに対し、女性は約  $110^\circ$  と広がっている。



## 6) 下肢の骨と臨床

大腿の大腿骨、下腿の脛骨・腓骨、足の足根骨・中足骨・趾骨からなる。

(1) 大腿骨は全身で最も長い長骨である。

(2) 高齢者は骨粗鬆症により、転倒時に大腿骨頸部を骨折しやすい。

(3) 大転子：大腿骨の外側にある大きなふくらみ。側臥位で寝た際に圧迫されやすく、褥瘡の好発部位である。

